

## 令和5年度論文賞 国内誌最優秀論文賞・国際誌最優秀論文賞受賞に寄せて

## 国内誌最優秀論文賞を受賞して

心身障害児総合医療療育センター 安西真衣

このたびは国内誌最優秀論文賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。ともに親子リハビリテーション入園を支えてくれたスタッフにあらためて感謝申し上げます。

幼少の肢体不自由児や重症心身障害児(者)では、自己の症状について述べることは、診察に積極的に協力すること、その両者とも難しい場合がよくみられます。彼らへのリハビリテーション治療の効果は明らかと思われても、ときにそれが医療者の主観で表現され、関係者間での正確な共有に弊害となり得ます。このような症例に最適な評価方法はないかと考えていたとき、脊髄性筋萎縮症患者の微細な治療効果判定の報告を聞き、そこ



第61回学術集会で  
行われた授賞式での  
安西先生と安保理事  
長



安西真衣先生

令和5年度論文賞  
国内誌最優秀論文賞

Canadian Occupational Performance Measureを用いた親子リハビリテーション入園の評価

受賞者

安西真衣, 大澤麻記, 水口 雅

で用いられた Canadian Occupational Performance Measure (COPM) を応用することを考えました。本報告では、肢体不自由児とその保護者に対する8週間の入園訓練の経過を、代弁者(保護者)の立案した項目に基づくCOPMで評価し、全例で遂行度、満足度の向上を定量的に示しました。小児では、生活リズムや就学のことなど、課題は治療のみにとどまらないため、症例ごとに目標を抽出できるスケールは有意義と感じました。

今後も日々の治療に対する客観的な結果を蓄積し、リハビリテーション医療、療育分野の発展に微力ながら貢献できるように精進してまいりたいと思います。

## 国際誌最優秀論文賞を受賞して

聖マリアンナ医科大学 佐々木信幸

研究とは偶然の出会いである。思い返せばrTMS研究を始めたのも院内の大掃除で埋もれていたTMS機器を発見したのが契機であった。本研究の契機は新型コロナウイルス感染後遺症(long COVID)専門外来設置の会議に偶然参加したことである。専門の先生から症状の説明をうかがう中で、自分が脳血管障害の後遺症に対し適用してきたrTMSが役に立つかもしれないと思いついた。Long COVIDに対し素人だったからその偶然の視点であったと思う。

私は過去に脳血管障害後のアパシーに対する内側前頭前野への賦活性rTMSの有効性を報告した。Long COVIDもアパシーと同様な状態にあるのではないかと考えSPECTを実施したところ、予想とはまったく異なるものの、後頭葉と前頭葉に強い血流低下が共通して認められることに気づいた。そこでそれらを賦活するrTMSを適用したところ、WAIS<sup>TM</sup>-IV知能検査のすべての項目が有意に改善し、脳血流低下も改善傾向を認めた。ただしすべての症例が同様の状態ではないし、本手法が最適とは考えていない。現在もよりテーラードな手法を模索している。



第61回学術集会で  
行われた授賞式での  
佐々木先生と安保理事  
長



佐々木信幸先生

令和5年度論文賞  
国際誌最優秀論文賞

Effect of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation on Long Coronavirus Disease 2019 with Fatigue and Cognitive Dysfunction

受賞者

Nobuyuki Sasaki, Masato Yamatoku, Tomoya Tsuchida, Hiroyuki Sato, Keiichiro Yamaguchi

るものの、後頭葉と前頭葉に強い血流低下が共通して認められることに気づいた。そこでそれらを賦活するrTMSを適用したところ、WAIS<sup>TM</sup>-IV知能検査のすべての項目が有意に改善し、脳血流低下も改善傾向を認めた。ただしすべての症例が同様の状態ではないし、本手法が最適とは考えていない。現在もよりテーラードな手法を模索している。

コロナ禍は収束し、5類感染症になったものの、長期持続するlong COVID患者は増加しつつある。今回このような名誉ある賞をいただき、よりいっそう研究に邁進しなければならないと気持ちを新たにしました。